

高浜原発差し止め

「安全の立証不十分」

稼働中で初3号機きょうつ停止

大津地裁決定

滋賀県の住民二十九人が関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の運転差し止めを求めた仮処分手続で、大津地裁（山本徳正裁判長）は九日、住民側の主張を認め、運転を中止するよう命じた。決定は午後三時、法的拘束力を持つため、関電は暫く運転中の3号機を今日午後三時に停止するものと明かした。裁判所の判断で稼働中の原発を差し止めるのは初めて。

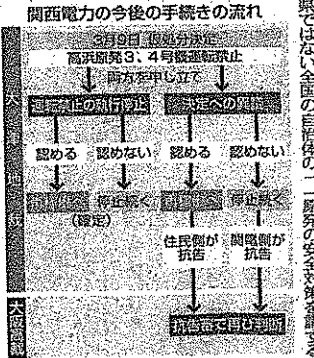


高浜原発3、4号機（滋賀県高浜町）の市民感覚を土台とした仮処分手続中。この市民感覚を土台として、大津地裁は判決を下した。写真は、大津地裁で判決が行われた翌日の様子。

市民感覚を土台に

【大津】運転中の原発を差し止める仮処分手続中。この市民感覚を土台として、大津地裁は判決を下した。

関西電力高浜原発3、4号機は、運転停止を命じた大津地裁の仮処分決定。現案は、運転を再開するに当たっては、原子力規制委員会から厳格な審査を受ける必要がある。また、運転再開に当たっては、原子力規制委員会の審査を受ける必要がある。また、運転再開に当たっては、原子力規制委員会の審査を受ける必要がある。



住民の人格権が侵害される恐れが高いにもかかわらず、関電は安全確保のために運転を再開しようとしている。判決は、住民側の主張を認め、運転を中止するよう命じた。また、3号機の運転も中止するよう命じた。

【決定の骨子】
● 関電は高浜原発3、4号機を運転してはならない。
● 運転の安全性を重大な支障を引き換えにはできない。
● 関電は高浜原発事故対策や避難計画を策定し、その策定を完了させなければならない。
● 関電は、国主導で避難計画を策定し、国に避難計画を提出し、国に避難計画を承認されなければならない。
● 関電は、国主導で避難計画を策定し、国に避難計画を提出し、国に避難計画を承認されなければならない。

再稼働方針変わらず 政府

【大津】大津地裁の判決は、再稼働方針に揺るぎはない。政府は、再稼働方針を堅持する。また、再稼働方針を堅持する。また、再稼働方針を堅持する。また、再稼働方針を堅持する。

審査への影響

大津地裁が関電に高浜原発3、4号機の運転差し止めの仮処分決定をしたことにより、審査への影響は大きいと見られる。

3/10
日根福井

「福島以後広がる変化」

電力会社に厳しい責任

「問題意識考え抜いた」

大津地裁が九日に出した関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の運転差し止めを命じる仮処分決定の影響は、関西電力だけに留まらない。行政機関の科学的専門的審査を経た判断を是としてきた裁判所が、東京電力福島第一原発事故後、住民の目線で判断するよう変化し始めていることを意味する。（角雄記）

「福島事故を経験した裁判所が、どのような問題意識を持つべきかを考え抜いた。昨年四月の福井地裁は原告再移動の可否を決める

だが、昨年四月の福井地裁決定直後に出現した鹿児島地裁の九州電力川内原発1、2号機（鹿児島県薩摩川内市）の差し止め仮処分の判断と、同十二月の福井地裁の関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の運転差し止め判決も、この理は、二〇一四年五月に大阪地裁3、4号機の運転差し止め判決も書いた樋口英明裁判長（当時）が担当。樋口裁判長による二つの司法判断は、原告の安全神話を支えたとも指摘される裁判所の「変化の象徴」と受け止められた。

だが、昨年四月の福井地裁決定直後に出現した鹿児島地裁の九州電力川内原発1、2号機（鹿児島県薩摩川内市）の差し止め仮処分の判断と、同十二月の福井地裁の関西電力高浜原発3、4号機（高浜町）の運転差し止め判決も、この理は、二〇一四年五月に大阪地裁3、4号機の運転差し止め判決も書いた樋口英明裁判長（当時）が担当。樋口裁判長による二つの司法判断は、原告の安全神話を支えたとも指摘される裁判所の「変化の象徴」と受け止められた。

「安全確保重視した」
滋賀県知事 誠意ある対応求める
高浜原発から五キロ圏の舞鶴市を抱える京都府、府民に不安が残る現状を重く受け止め、地域に残る懸念に誠意を持って対応するよう求める」との談話を出した。

裁判官に深い敬意



高浜原発3、4号機の運転差し止め仮処分決定に深く住民ら＝9日午後3時43分、大津地裁前で

小走りで大津地裁から出てきた井藤正明市長、住民たちが祈るように見詰めた。その輪の中に飛び込んだ井藤市長が、今晩は本当においし酒が飲める。取り敢えず、住民の歓声ははじけた。傘を突き上げて万歳をし、目を潤ませて口を押さへ、携帯電話を手に「勝利」を伝える。その拍手に合わせるように、祝福の雨が傘を鳴らした。

「覚悟ある決定がうれし、これを機に、ますます脱原発の世論も盛り上がるはず」と、申立人の一人の畑明郎さん（全）滋賀県電

「第二の福島にしない」
出身の主婦 決定に涙
大津地裁の決定に涙が止まらなかった。「人間らしい扱いをしてもらえた。滋賀を第二の福島にしたくなかった。原発事故後、福島県南相馬市から夫と子どもを連れて大津市へ転居した主婦、畑明郎さん（全）は地裁前日に涙を流して喜んだ。

「安全確保重視した」
滋賀県知事 誠意ある対応求める
高浜原発から五キロ圏の舞鶴市を抱える京都府、府民に不安が残る現状を重く受け止め、地域に残る懸念に誠意を持って対応するよう求める」との談話を出した。

行政審査より住民目線

「安全確保重視した」
滋賀県知事 誠意ある対応求める
高浜原発から五キロ圏の舞鶴市を抱える京都府、府民に不安が残る現状を重く受け止め、地域に残る懸念に誠意を持って対応するよう求める」との談話を出した。